

平成29年度 学校経営計画に対する評価計画書

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
1 上位層への刺激とともに中間層の底上げを図るため、教員間の学び合いを進めるとともにICT機器の活用や反転学習、アクティブ・ラーニングなどにより生徒が主体的・協働的に学ぶ授業づくりを目指し論理的思考力及び発言力の育成に努める。	① アクティブ・ラーニングやディスカッションを授業の中に導入するなど、授業の工夫を図っている。	教務課 各教科	アクティブ・ラーニングやディスカッションについては、一定の学習効果が感じている生徒が見られる。	【満足度指標】(生徒) アクティブ・ラーニングやディスカッションにより、生徒が授業に主体的に取り組むようになり、学習効果が高まった。	アクティブ・ラーニングやディスカッションにより学習効果が高まると感じている生徒が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	② 授業の中で生徒が自分の考えを述べる場面、論理的思考力を育成する場面、教師と生徒とのやりとりの場面を設定している。	教務課 各教科	ほとんどの教員が思考を要する発問を工夫している。	【努力指標】(教員) 各授業で生徒の発表の場面や教師とのやりとりの場面を多く設定し、生徒の言語活動の活性化を図る。	日々の授業において、考える必要のある質問をし、生徒が発表(発言)する場面を A 多く設定している B 時々設定している C あまり設定しない D 全く設定しない	A+Bが80%未満の場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	③ 家庭学習と授業内容の連動を図り、学習習慣の確立と学習内容の質の向上をめざす。	教務課 各教科	現3年生は2年時家庭学習時間を伸ばしている。いずれの学年も朝学習と関連して小テストを行うなどすることにより家庭学習の充実を図る必要がある。	【成果指標】(生徒) 質および量ともに充実した家庭学習の習慣が確立されている。	1,2年生で平日の平均家庭学習時間が120分以上である生徒が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	④ 朝学習の充実により、学びにむかう主体性を身につけ、学びの質を高める。	各学年	【1年】 英語：リスニングでは集中して聞く姿勢ができ、英文を聞くことに少しずつ慣れている。一方、長文には慣れておらず、模試等で対処できないと感じる生徒が多い。 数学：週末課題の確認のテスト→学習会のサイクルでおこない、模試レベルを見れば、全体の学力は底上げされた。 【2年】 授業→朝学習(小テスト)→再テスト(補講)→考查という学習習慣がうまく確立され、授業内容の確認、弱点克服につながっている。しかし、教科によっては不合格者が多く、内容を理解しないままテストを受ける生徒が見られる。 【3年】 強化が必要な科目に重点を置いてテストや課題等を実施できた。	【満足度指標】(生徒) 生徒自身が積極的に朝学習に取り組み、学力や教養が身についたことを実感している。	朝学習で学力や教養が身についたと考える生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	Dの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
2 個別面談や学習活動を通したきめ細かな指導により、生徒一人ひとりの可能性を引き出し、早期に高い進路目標を持たせ、進路実現に向けての意欲と主体性を育む。	① クラス全体の指導やきめ細かい個人面談などを通し、生徒の進路意識を高め、設定した進路目標を実現するために自ら能動的に学習し、学力を高める努力をするような意識づけを行う。	進路指導課 学年 教科	高い志望を掲げ学習に能動的に取り組む方策が奏功し、全学年で高い数値となっている。 特に3年では高い志を掲げ、能動的に学習に取り組む生徒が増加している。	【満足度指標】(生徒) 進路学習や面談などの進路指導を通して、5教科に対する学習意欲が高まり、学力が向上する。	(1・2年)9月の進路志望調査で、国公立大学を目標とする生徒が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 60%以上 (3年)9月の進路志望調査で、金沢大学以上を目標とする生徒が A 80人以上 B 60人以上 C 40人以上 D 40人未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	9月の進路志望調査の結果で判断する
				【成果指標】(生徒) 基礎学力と応用力を身につける。	1,2年生の学力試験で各教科の全国偏差値が A 平均偏差値50以上 B 平均偏差値48以上 C 平均偏差値45以上 D 平均偏差値45未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	1,2年 11月総合学力テストの結果で判断する。
	② 進路指導課から各学年、教科に方針を発信することにより、教員全体の相互理解を深め、生徒の進路志望を実現するための学力向上の取組を組織的に行う。	進路指導課 学年 教科	現2年生:現3年生に比べ、国語を除き下がった。 現3年生:卒業した昨年の3年生に比べ数値は高かった。 両学年とも全成績層の生徒への学力向上のための取組を継続中である。	【成果指標】(生徒) 国公立大学、難関私立大学を目標とした生徒の育成と、それに見合った学力をつける。	1,2年生の英数国の学力試験全国偏差値54以上の生徒が A 55人以上 B 45人以上 C 40人以上 D 40人未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	1,2年 11月総合学力テストの結果で判断する。
				【成果指標】(生徒) 国公立大学、難関私立大学への合格者を増やす。	金沢大学以上の国公立大学合格者数が A 15人以上 B 10人以上 C 5人以上 D 5人未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する
					国公立大学合格者数が A 70人以上 B 65人以上 C 55人以上 D 50人以上	CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する
			【成果指標】(生徒) 難関私立大学合格者数が A 20人以上 B 15人以上 C 10人以上 D 10人未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する		

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
3 部活動や生徒会活動の活性化とともに地域行事への積極的参加に努め、チャレンジ精神の涵養を図り、明るく活力ある学校づくりを推進する。	① 保護者に「朝の挨拶運動」を始めとしたPTA活動等に積極的に参加してもらい、教育活動をバックアップしてもらおう。	総務課	挨拶運動への参加保護者数が全生徒の約6割であり、学校行事、PTA行事への参加呼びかけに工夫が必要である。	【成果指標】(保護者) 多くの保護者が学校行事等に関心を持ち、積極的に参加している。	学校行事やPTA活動で保護者が来校した回数の平均が A 5回以上 B 4回以上 C 3回以上 D 2回以下	A+Bが50%未満の場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	② 本校の教育活動、生徒の活動の成果をホームページ上に掲載し、広く情報を発信する。	総務課	データ量が増え、最新の情報に更新されていないページが見受けられる。各課・学年に該当ページを周知し、更新手続きを積極的にしてもらうことで新しい情報の提供に努めたい。	【成果指標】(教員) 各課、学年等からの最新情報が集約され、速やかにホームページ上に掲載される。	ホームページ上の更新回数が A 15回以上 B 12回以上 C 10回以上 D 8回以下	C、Dの場合対策を検討	年度末に評価する
	③ 部活動の加入を促し、学校全体の活性化を図る。生徒のチャレンジ精神と部活動の実力向上を目指す。	生徒課	様々な状況の中で、中途退部者が10%弱発生している。各顧問と協力し、中途退部者防止策や生徒に対して他の部への再入部の支援体制を行う必要がある。	【成果指標】(生徒) 多くの生徒が部活動に加入し、活発に活動している。	1,2年生の部活動の加入率が A 90%以上 B 85%以上 C 83%以上 D 83%未満	Dの場合は改善策を検討	12月に評価する。
	④ 明倫祭の外部公開を継続し、校内開催と校外開催についての内容を検討し、本校の外部に対する情報発信力を高める。	生徒課	土日開催ということで、日曜日の県立音楽堂への保護者を中心とした来場者が100名程度増加した。一方で土曜日に本校で開催した1日目は来場者が100名程度減少した。	【成果指標】(保護者) 地域への広報活動と、内容の充実により、2日間の来場者数が増加した。	1日目の来場者数が A 900名以上 B 700名以上 C 500名以上 D 400名未満	Cの場合は改善策を検討	9月に評価する。
	⑤ 図書委員会による本の読み聞かせや本の紹介カードの作成・展示、公立図書館からの本の借り受けなど地域と連携した活動を行うことで生徒のチャレンジ精神の涵養を図る。	図書課	地域の保育園児や放課後子ども教室の児童を対象とした「本の読み聞かせ」、市立図書館での本の紹介カードの展示等、地域と連携した活動は評価も高く、生徒の自信とやる気につながっている。	【成果指標】(生徒) 地域と連携した図書委員会活動において、生徒が積極的に活動し情報を発信した。	地域と連携した図書委員会活動の回数が A 年間10回以上 B 年間8～9回 C 年間6～7回 D 年間6回未満	Dの場合は、改善策を検討。	年度末に評価する。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
4 節度ある生活習慣の確立に努め、自ら挨拶し、読書に親しみ、ボランティア活動等にも積極的に参加する豊かな人材の育成を図る。	① 登校指導や生活指導などを通して、挨拶がしつかりできる人間の育成を図る。	生徒課 各学年	学年が進行するにつれて進路実現に向けての意識向上や自我が確立され社会性が向上しつつある。1、2年生において早いうちから進路目標の設定や社会性を育成する指導を取り入れることが数値向上につながると考えられる。	校内で出会った人に対して、積極的に大きな声で挨拶をする生徒が増えている。	生徒同士や教職員、外部からの来客に対し、挨拶を自分からすすんでしっかりとできた生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	② 登校指導や生活指導などを通して、自ら身なりを正すことを通じて、規範意識を育成する。	生徒課 各学年	生徒の規範意識は高いが、僅かではあるが、頭髪や制服の変形着用をしているものがみられる。	毎日、自ら身なりを整える生徒が増えている。	制服を意識的に正しく整えている。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	B以下の場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	③ 交通安全教室や街頭指導を通して、自転車の安全運転の励行を図る。	生徒課 各学年	規範意識自体は高いが、並列走行などに違反意識が薄い。細かな指導と啓発活動が急務である。	自転車運転のルールとマナーの必要性を認識し、交通ルールを遵守する生徒が増えている。	交通ルール(自転車の二人乗りや携帯電話を操作しながら等の運転をしない)を遵守している生徒が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	④ 学校内外のボランティア活動への自発的な参加を促すとともに、ボランティアに参加したことの達成感や地域貢献への意識を高める。	生徒課 各学年	全校で取り組んでいる校外清掃などをボランティアと認識していない生徒が多いようである。	学校全体や部として取り組んだボランティア活動に、自発的に参加する生徒が増えている。	ボランティア活動に、 A 自発的に複数回参加した B 自発的に参加した C 参加した D 参加しなかった	A+Bが50%未満の場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	⑤ 生徒の良好な人間関係作りを支援する。	相談室 各学年	生徒は全体的に落ち着いた生活をしているが、人とかかわることを苦手とする生徒が増えており、良好な人間関係を築くための手立てを必要としている。	生徒がクラスや部活動に居場所を見出し、学校生活が楽しいと感じる。	学校生活が楽しいと感じる生徒が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	⑥ 情報の収集、共有を密に行い、困難を抱えた生徒に対して早期に対応し支援する。	相談室 生徒課 各学年	いじめ及び心的支援を必要とする生徒への対応について職員の情報共有や連携の体制は取れている。一方、長期欠席の生徒の対応については、一層の情報共有と連携を図り丁寧に取り組む必要がある。	各種調査や担任との情報交換などで、支援を必要としている生徒をしっかりと把握し適切な対処をしている。	生徒の変化に対して A 素早く対処し、解決に至った B 素早く察知し、対応することができた C 素早い対処ができず、解決が遅れた D 発見・対処が遅れた	A+Bが90%未満の場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	⑦ 各検診の結果で健康管理上、受診・治療が必要と診断された生徒に対し、個人面談を通して自己の健康課題を意識させ医療機関での受診率を高める。	保健環境課	生徒には個別指導、保護者には受診勧告書で医療機関への受診を勧めた。心臓検診の意識は高いものの、歯科・視力については受診率が高まらなかった。	医療機関の受診を勧められた生徒が自己の健康管理上、受診・治療の必要性を理解し医療機関を受診した生徒の割合を高める。	各検診の結果から自己の健康管理上、受診・治療の必要性を理解し医療機関を受診した生徒の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	Dの場合は改善策を検討	年度末に評価する。
	⑧ 図書館報、図書便りによる図書案内や各学年団と連携した朝読書、ビブリオバトル、一斉読書などの読書指導によって、読書に親しむ習慣を身に付けさせる。	図書課	例年通り朝読書やビブリオバトルなどに取り組み、購入図書の生徒へのリサーチや企画展示を行ったが、一人あたりの貸出冊数は伸び悩んだ。	読書に親しむ生徒が増え、図書館利用が増加している。	生徒一人あたりの本校図書館の年平均貸出冊数が A 6.0冊以上 B 5.0冊以上 C 4.0冊以上 D 4.0冊未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する。